

第13回日本アグーナリー 現地説明会報告書



日時：令和5年8月19日（土）～20日（日）

会場：福島県・国立磐梯青少年交流の家

【目次】

1.	日程表・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2
2.	参加者・スタッフ・・・・・・・・	P 3
3.	配布資料・・・・・・・・	P 4
4.	大会概要説明	
	大会概要・・・・・・・・	P 4
	組織図・・・・・・・・	P 4
	会場利用計画・・・・・・・・	P 5
5.	各サービスセンターから準備状況等の説明	
	各センターの掌握業務・・・・・・・・	P 6
	総合サービスセンター・・・・・・・・	P 6
	生活サービスセンター・・・・・・・・	P 8
	活動サービスセンター・・・・・・・・	P 1 0
	チャレンジクルーサービスセンター・・・	P 1 1
	一般参加サービスセンター・・・・・・・・	P 1 2
	全体への質疑応答・・・・・・・・	P 1 3
6.	会場視察（会場写真）・・・・・・・・	P 1 4
7.	今後の準備日程等・・・・・・・・	P 2 1

※本書のフォントには、「UD（ユニバーサルデザイン）教科書体」を使用しています。

Ⅰ. 日程表

第 13 回日本アグーナリー現地説明会 日程表		
1 日目 8 月 19 日 (土)	時刻	2 日目 8 月 20 日 (日)
		起床
	7 時	07:00 朝の集い (施設の催し) 07:20 朝食
	8 時	部屋清掃・チェックアウト
	9 時	09:00～11:00 ・概要説明 3 : 輸送や資材について 一般参加について チャレンジクルーについて
※時刻表 猪苗代駅着 : 11:58、12:52	10 時	・参加隊の準備、今後の日程 ・質疑応答
	11 時	11:00 閉会・解散
	12 時	
13:30 集合・受付	13 時	※時刻表
14:00～15:00 ・開会式、オリエンテーション ・概要説明 1 : 会場利用計画	14 時	猪苗代駅発 : 11:58、12:52
15:00～17:00 ・会場視察 (雨天決行)	15 時	
	16 時	
17:00 概要説明 2 プログラムについて	17 時	
18:00 夕食・チェックイン	18 時	
19:00～19:50 ・概要説明 2 生活について	19 時	
20:00 情報交換会	20 時	
21:00 入浴	21 時	
22:00 就寝	22 時	

2. 参加者・スタッフ

参加者：21 県連盟 51 団 79 人

スタッフ：13 NA 実行委員会、事務局他 20 人

福島県庁：3 人

計 102 人

No.	所属県連盟	所属団	氏 名
1	青森県	青森第1団	高 橋 文 子
2	岩手	盛岡第5団	小 林 俊 将
3	宮城県	岩沼第1団	小 堤 泰
4	宮城県	みやぎスカウトクラブ	菅 野 宏 彦
5	山形県	事務局	大 江 恵 子
6	福島	会津美里第1団	清 水 博 文
7	福島	会津若松第1団	赤 城 圭 一
8	福島	猪苗代第1団	山 田 幸 一
9	福島	猪苗代第1団	関 口 榮 幸
10	福島	いわき第3団	大 槻 礼 子
11	福島	いわき第3団	鈴 木 克 彦
12	福島	いわき第10団	大 谷 盛 一
13	福島	いわき第10団	西 山 允 雄
14	福島	桑折第1団	尾 形 幸 人
15	福島	桑折第1団	柿 沼 高 志
16	福島	桑折第1団	赤 坂 達 郎
17	福島	郡山第1団	落 合 将 人
18	福島	福島第1団	渡 辺 千 春
19	福島	福島第1団	和 合 治 幸
20	福島	福島第1団	桜 井 健 二
21	福島	福島第3団	菊 地 和 夫
22	福島	福島第4団	尾 形 好 子
23	福島	福島第4団	丹 治 直 人
24	福島	福島第4団	高 橋 直
25	茨城県	水戸第2団	川 口 里 佳
26	茨城県	水戸第2団	久 間 大 馳
27	栃木県	宇都宮第18団	都 甲 千 鶴 留
28	栃木県	小山第3団	星 野 桃 也
29	栃木県	那須塩原第1団	常 盤 政 博
30	栃木県	那須塩原第1団	矢 板 知 浩
31	栃木県	那須塩原第1団	長 谷 川 裕 太
32	埼玉県	さいたま第1団	越 智 栄 史
33	埼玉県	さいたま第1団	越 智 泰 子
34	埼玉県	秩父第1団	町 田 嘉 宏
35	千葉県	県コミッショナー	片 寄 朗
36	千葉県	県副コミッショナー	山 下 す み 江
37	千葉県	スカウト委員長	太 田 尻 工
38	千葉県	旭第1団	遠 藤 泰 裕
39	千葉県	市川第1団	大 作 寛
40	千葉県	市川第3団	遠 藤 一 馬
41	千葉県	佐倉第2団	森 下 公 博
42	千葉県	習志野第3団	加 藤 恵 津 子
43	千葉県	松戸第7団	伊 藤 芳 績
44	千葉県	松戸第7団	石 渡 雅 人
45	千葉県	松戸第7団	中 田 篤 志
46	千葉県	松戸第7団	吉 田 実
47	千葉県	千葉第9団	宇 治 隆 雄
48	千葉県	船橋第14団	豊 城 邦 彦
49	神奈川	秦野第1団	柿 崎 マ リ ア
50	神奈川	横浜第20団	田 原 雅 浩
51	東京	足立第4団	水 落 俊 太 朗

No.	所属県連盟	所属団	氏 名
52	東京	小金井第1団	有 馬 靖 司
53	東京	杉並第11団	林 敏 朗
54	東京	練馬第4団	杉 本 文 司
55	東京	練馬第4団	原 田 明
56	東京	練馬第4団	難 波 克 太 郎
57	東京	練馬第4団	原 田 賀 章
58	長野県	長野第15団	林 温 大
59	岐阜県	多治見第1団	富 井 克 巳
60	静岡県	清水第19団	藤 田 め ぐ み
61	静岡県	富士宮22団	若 林 智 子
62	静岡県	沼津第4団	野 田 由 男
63	愛知	春日井5団	大 宮 範 子
64	愛知	名古屋第30団	佐 野 守 彦
65	愛知	名古屋第128団	新 川 智 康
66	滋賀	彦根第1団	中 村 直 樹
67	滋賀	大津第12団	安 居 祐 治
68	滋賀	大津第12団	山 本 哲
69	京都	宇治第5団	西 田 章 夫
70	京都	京都第91団	河 原 恵 子
71	兵庫	川西第1団	田 中 い づ み
72	兵庫	尼崎第25団	光 造 久 雄
73	兵庫	尼崎第25団	吉 岡 健 一 郎
74	大阪	大阪第72団	神 崎 正 也
75	大阪	吹田第19団	久 徳 一 志
76	大阪	豊中第12団	松 岡 陽 子
77	山口県	下松第5団	竹 内 諭
78	福岡県	那珂川第1団	坂 本 文 雄
79	福岡県	那珂川第1団	坂 本 京 子
80	実行委員会	実行委員長	高 崎 友 延
81	実行委員会	副実行委員長	櫻 井 康 博
82	実行委員会	副実行委員長	和 田 剛 和
83	実行委員会	副実行委員長	大 槻 富 寛
84	実行委員会	活動SC部長	植 田 明 子
85	実行委員会	活動SC副部長	夏 井 宏
86	実行委員会	一般参加SC部長	大 関 宏 之
87	実行委員会	一般参加SC副部長	宮 崎 賞 人
88	実行委員会	チャレンジクルーC部長	河 村 賀 久
89	実行委員会	チャレンジクルーC副部長	大 江 裕 樹
90	実行委員会	生活SC部長	黒 田 茂
91	実行委員会	生活SC副部長	清 水 美 香
92	実行委員会	総合SC部長	梶 原 圭 介
93	実行委員会	総合SC副部長	高 橋 弘 之
94	福島	事務局	丹 治 恵 喜 子
95	日本連盟	事務局	大 浦 秀 樹
96	日本連盟	事務局	磯 畑 雄 三
97	日本連盟	事務局	山 田 哲 司
98	日本連盟	事務局	横 山 美 佳
99	日本連盟	事務局	齋 藤 誠 大
100	福島県	教育庁 社会教育課	佐 藤 浩 幸
101	福島県	教育庁 社会教育課	尾 形 勉
102	福島県	教育庁 社会教育課	秋 山 裕 紀

3. 配布資料

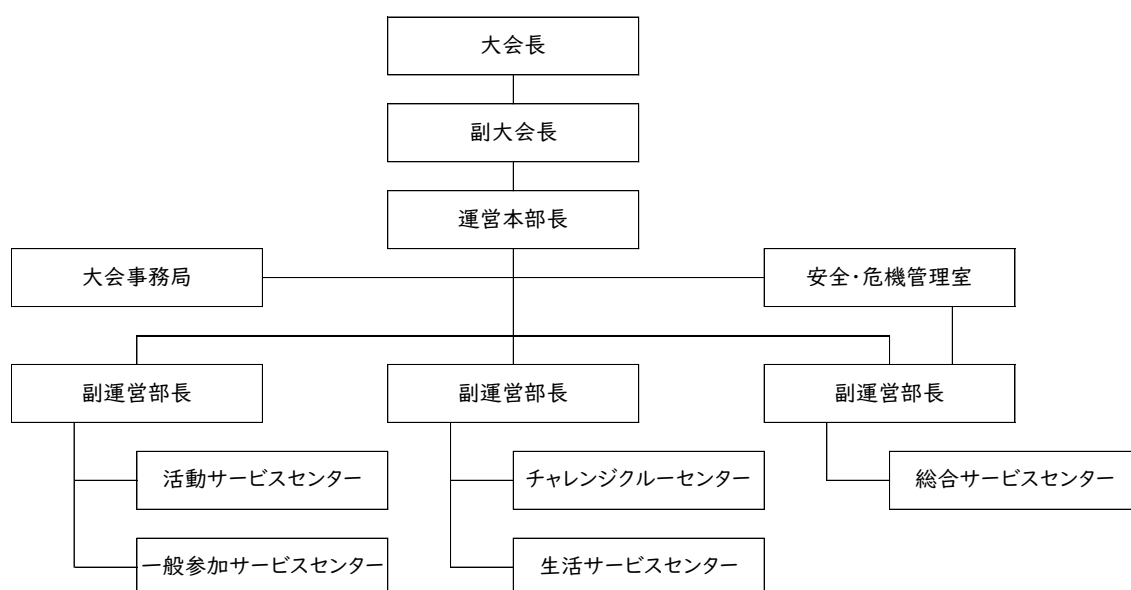
- | | |
|---------------------|---------------------|
| ①日程表 | ②参加者名簿 |
| ③施設の利用 | ④大会概要 |
| ⑤大会組織図 | ⑥大会日程 |
| ⑦会場利用計画 | ⑧活動サービスセンター専門部会資料 |
| ⑨生活サービスセンター専門部会資料 | ⑩総合サービスセンター専門部会資料 |
| ⑪チャレンジクルーセンター専門部会資料 | ⑫一般参加サービスセンター専門部会資料 |

4. 大会概要説明

<大会概要>

- 会 期 2024年8月8日(木)の開会式から8月12日(月・祝)の閉会式まで
スタッフは8月7日(水)集合
- 会 場 福島県・国立磐梯青少年交流の家 (<https://bandai.niye.go.jp/>)
〒969-3103 福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1
- 大会の目的 日本アグーナリーは、キャンプを通じて、全ての参加者が障がいについての理解を深め、人格と個性を尊重し支え合えあう社会の実現を目指すことを目的とする。
- 大会の目標 ①国内外の特別な配慮を必要とする青少年が相集い、自信と勇気に満ちた生活態度を自ら獲得できるよう努力する。
②障がいのある人への理解を深め、合理的な配慮や支援が行えるようにする。
③磐梯山麓の豊かな自然の中でのキャンプ生活を通じて、自然・人・社会との共生の大切さを体感する。

<大会組織図>



<会場利用計画>

2023.07.03時点



※今後、変更となる可能性があります。

5. 各サービスセンターから準備状況等の説明

<各センターの掌握業務>

部署	所掌業務
総合サービスセンター	総合受付、総務、輸送、施設・資材、場外プログラム、見学者、遺失物に関すること
生活サービスセンター	参加者の野営・宿舎泊生活、配給・本部食堂、応急手当に関すること
活動サービスセンター	全体行事（開会式、閉会式、国際交流のタベ、磐梯のタベ）、場内プログラムに関すること
チャレンジクルーセンター	参加隊との生活やプログラムを通じて、共生を体験する
一般参加サービスセンター	一般参加（募集、プログラム、支援）に関すること
安全・危機管理	大会の安全・危機管理、セーフ・フロム・ハームに関すること

<総合サービスセンター>

1. 受付について

受付予定箇所 駐車場前のトイレ付き小屋予定

待機場を設置 猪苗代町カメリーナを予定

場合によって「カメリーナ」で受付をすることも検討中

2. 荷物場の設置について

荷物を事前に送る場合 前日8月7日午後に荷物を指定して送ってもらうよう準備する予定。

3. 駐車場及び車両関係について

参加者及び奉仕スタッフについては施設内の駐車場は使用できない。

近隣に大会期間中に留め置きできる駐車場を確保相談中。

留め置き場から会場まではシャトルバスを運行予定。

①猪苗代スキー場 ②公共駐車場

申込時の輸送調査票などで事前に調査を行い②まで利用できるようにするか検討中。

期間中、留め置きの車の出し入れは行わない。

緊急事態等による車の出し入れは本部緊急車両などで対応する。

4. 鉄道利用者について

JR 東日本と車両増結、到着ホームの変更等について要請協議中。

猪苗代駅から会場までのシャトルバスを運行予定。

5.見学者・デイビジターについて

同様に会場の駐車場は使用ができないため留め置き場への駐車をお願いしシャトルバスでの来場をお願いします。

留め置き場は大会期間中出し入れができないが待機場に駐車させるか

6.資材関係について

施設の Wi-Fi 環境は本館の一部エリアでのみ利用が可能。(現地説明会開催時点)

野営エリアの仮設トイレ及びシャワーの設置について生活 SC と連携して利用状況を確認しつつ対応していく

7.野営資材等の斡旋について

参加隊への斡旋も予定をしている状況

大会全体の資材等についても各 SC と連携をして必要資材を集約して準備する予定。

8.会場全体の安全危機管理として

各 SC と連携して準備段階から含めて対応していく

■総合サービスセンターに関する質疑応答

Q.アマチュア無線利用の検討などはあるのか？

A.(活動 SC より) 活動 SC の場内プログラムで運用は考えているが総合 SC としてはまだ運用を検討していないため、今後必要かどうか検討したい。

Q.車いすスカウトが乗ってくる福祉車両を受付時、生活エリアの入り口までいくことは可能か？

A.事前に申込み段階でお示ししてもらえれば対応できる。入場許可証等を作成する。そのような車両があまりにも多ければ限界はあるが、事前輸送調査などで把握し可能な範囲でスムーズに入場できるように配慮する。

Q.テントや資材などはトラック等で事前に持ち込みたいが可能か？

A.大会前日であれば参加の子ども達もいない状況なので、直接会場に入場してもらって運搬してもらうことは可能。

Q.前乗りしない場合の野営資材の運搬について

A.参加者と荷物一緒に来る場合、一度荷物を施設裏の駐車場で下ろす。本部車両で軽トラを用意する予定なのでそれに荷物を積んで運搬してもらおうと予定している。

Q.外国派遣隊の Wi-Fi について

A.実行委員会でも検討しているが、もし光回線で Wi-Fi 環境を野営場まで含めて設備を整えると金額が予算を超えてしまう。ポケットシムの運用検討もしていたが、その程度の環境設備であれば外国派遣団は準備してくるだろうと予測している。

外国派遣団に対しては、運営側より会場の Wi-Fi 環境をしっかりと伝えて個々の対応を取ってもらう。国内参加者についてもどうしてもネット通信範囲外で利用をしたければポケット Wi-Fi 等、個々での対応を取ってもらうようお願いする。

Q. 奉仕スタッフとして参加希望ですが奉仕スタッフの宿泊部屋などは決まっているのか？またベッドやイスなどの持ち込みなどは可能なのか？

A. 宿泊場所については所属にもよるがまだ完全に場所が決まっていない状況。諸事情等でベッドなどの持参が必要であれば申し込みの段階で要望を伝えてもらえば、どここの所属で受け入れができるかを検討していきたい。

Q. 舎営エリアは電源の差し口が少なかった。キャンプサイトの電源についてはどうか？

A. 野営サイトには炊事場に電源がある。テーブルタップ等は運営側で用意を予定している。また充電をする方には自己責任で管理をお願いする。必要な方はポータブル充電器を推奨。舎営エリアにおいては各自準備していただきたい。

Q. 舎営のエアコンの利用について、条件によって 0 時までとなっている。睡眠時の熱中症が心配

A. 来年の気温状況も踏まえ、施設としっかり相談をして今後の運用について検討していきたい。

Q. 質問ではないがお願い。夜の野営場の確認をしてきた。通路の導線部分だけでも明かりを確保してほしい。ぱっと飛び出してくる子どもが多くいるかもしれないので、場内車両にパトランプや LED ライトなどを装備してもらいたい。

A. (生活 SC より) 灯りについては検討中。車両については期間中緊急車両以外出入りがなく、業者車両も事前に出入り時間がわかれば把握し場内にアナウンスできるように考えている。加えて出入りする業者様にも施設を通して周知するようお願いする。

<生活サービスセンター>

1. 生活SCの業務

- ・野営・舎営・食堂・医療・その他生活に関することが業務範囲。
- ・各班の業務内容の説明

2. 宿泊について

参加隊は、野営か舎営かを選択頂く。

(1) 野営について

- ・施設のキャンプ場内を利用する。
- ・常設テント（25か所）に、5人用テントを貸し出し、各隊への割り振りを行う。
- ・炊飯場は2か所を利用し、炊具の貸し出しも可能。電源もあり、携帯もつながる。
- ・キャンプ場内は現時点でフリーWiFiの利用はできない。別途検討中
- ・トイレは2カ所あるが、別途仮設トイレの設置を検討している。
- ・入浴は、本館内の浴場の利用を基本とする。入浴時間外では、水シャワーの利用可のため、昼間時シャワー利用を開放予定である。
- ・営火場は営火場2のみの利用し、利用希望により調整する。

(2) 舎営について

- ・宿泊棟を利用する。一部屋5人和室が基本で寝袋の使用を検討している。
- ・部屋割りは、参加隊へのアンケートまたは申込み時の希望調査により対応する。

- ・洗面所は、各フロアーに7か所設置、トイレは男女2か所、ユニバーサルトイレ1か所が設置。
 - ・ユニバーサルルームは2部屋あり、各部屋にベッドが2台。車いす用の浴室もある。
 - ・ユニバーサルトイレには、左右両方の手すりが設置。車いす用の洗面台も設置。
 - ・エレベータは6：30～23：00利用可能。
 - ・館内は土足のまま利用が可能。入口で泥を落として館内に入っていただく。
 - ・入場口は、1か所（利用者玄関ホール）を基本とする。
- (3) 入浴について
- ・ばんだいの湯（男）といなわしろの湯（女）の2か所を基本とする。車いすの方はユニバーサルルームの奥の浴室（五色の湯）を利用する。
 - ・館内のシャワー室とひばりの湯については別途利用を検討する。
- (4) 食事について
- ・食堂を利用し、食堂への導線は一方通行とする。
 - ・車いすの方は、体育館のエレベータを利用して2階にあがり食堂へ入る動線を検討。雨天時の体育館までの移動は玄関ホールから福祉車両の利用を検討中。
 - ・食券を発行し運用する予定。
 - ・食堂の広さから4回転～5回転が必要で、食事の時間割を検討中。
 - ・アレルギー食等は申込み時のアンケートを行う。場合により代替えの食事の持ち込みをお願いすることがある。
 - ・昼食は弁当食を多用する。（メニュー確定は来年の6月頃）
 - ・お茶の供給については、水出しのお茶パックで提供予定。
 - ・氷の配給は、予約制で申込みを別途お願いする。
- (5) 救護について
- ・救護室は自然観察室を利用する。
 - ・救護室では医療業務は行わない。医療機関への搬送が必要かどうかは、担当医師の判断により対応する。
 - ・救急搬送する病院は、別途施設が案内している病院を基本に検討している。
- (6) その他生活に関すること
- ・コインランドリーが4台設置。利用案内を提供する。

■質疑応答

- Q1. 食品のアレルギー情報はわかった段階で参加隊に共有いただきたい。
特に弁当は4割程度の子どものアレルギーの配慮が必要だと言われている。
2. スカウトの脱走が想定される場所が数カ所見受けられたので、場所をお知らせしたい。初日、磐梯のタベと、最終日がいなくなるスカウトの確率が高くなるので、希望制により配慮が必要なスカウトを識別できるのを検討いただきたい。
3. 医療ケアが必要な一般参加の子どもの参加希望があり看護師の同行を検討している。緊急搬送される病院や救護室に常駐される医師、看護師の人数を知りたいとの要望があるので、個別で良いので回答いただきたい。
- A1. アレルギーの件は、今後詰めていくのでご意見を承った。
2. （和田副委員長）当センターで想定している場所は、「電線の下の作業道」と「一番上の登山道口」のため野営管理班のテントを展張する。
3. 清水救護班長（看護師）より、医療チームの医師、看護師を確保している。今後も声をかけし増やしていく。搬送先の選定は事前にしっかりと行い、そこはまかせていただきたい。
- また日頃の状態を知っている指導者や保護者に同行いただくのが一番良い。あとは情報を共有させていただければと思う。
- 和田副委員長より、危ない箇所をご指摘いただきたい。
- 電線の横に抜けていく道、一番奥、沢伝い、池（今日は空）

Q：ボーイ隊の野営の場合は、自炊が可能か？

A：プログラムでの野外炊事はあるが、生活での食事は食堂で願います。

Q:ボーイ隊は野営を希望するが、資材を運搬する際、ハンディキャップの隊のため、運搬に人が割けないため、事前の送付や搬入の際にお手伝いなど配慮いただけるのか、今後アナウンスいただきたい。

A:（梶原総合SC長）事前送付や搬入は総合サービスセンターが担当している。

チャレンジクルーのメンバーに協力を得て搬入を手伝う。荷物を降ろす場所を指定するので、降ろしていただきサイトに運びます。また資材搬入の車両や車椅子の方の輸送のための福祉車両も手配する。

Q：12回大会での最終日の昼食の問題があったが、大会として用意がないということで良いか？また、到着した日は夕食からで良いか？前回トラブルがあったので、確認させていただきたい。

A：その通り、1日目の夕食から最終日の朝食まで。

<活動サービスセンター>

プログラム全体の考え方として、楽しみながらプログラムに挑戦し、自分の力でアワード（章）を取得してもらうかたちを計画している。「ディアワード」「ドリームアワード」を用意する予定である。また、毎日の国旗掲揚や公共場所の美化活動などサービスプログラムも用意するので挑戦して欲しい。

ドリームパスポート（スカウト用プログラムガイド）を作成して参加者に配布するので活用して欲しい。

①全体交流行事

全体交流行事として次のものを予定している。

1 日目の夜：開会式、2 日目の夜：交流のタベ、3 日目の夜：フォーラム、4 日目の夜：磐梯のタベ、5 日目の朝：閉会式、期間中：スキル・オ・ラマ

実施場所について、現時点では下記の3か所を予定している。

- ・かんぽラジオ体操広場：開閉会式（晴天）、スキル・オ・ラマ、磐梯のタベ
- ・体育館：開閉会式（雨天）、フォーラム、交流のタベ
- ・講堂：スキル・オ・ラマ（雨天）

参加スカウトにも司会などの役割で活躍してもらいたい。

スキル・オ・ラマとは、決まった時間で出し物を演じるものであり多くの参加を期待している。

②場内プログラムについて

現時点では、16の場内プログラムを計画している。

野外料理やハイキング、工作やハンディキャップ体験など参加者が楽しみながら、挑戦できる内容を準備している。

プログラムによっては参加隊の方で準備してもらう物があるので事前にお知らせしていく。

プログラムの展開場所として「かんぽラジオ体操広場」「ふれあい広場」や「子どもの森」など場内いくつかの場所で分散して実施するかたちになる。

③場外プログラム

場外プログラムは大会４日目に実施する。

５つのコースを計画しており、現在各施設との調整を行っている。

コースによっては費用がかかるものや水着などの準備物が必要なところもあるので事前にお知らせしていく。

この日の昼食は出発時に携行食を支給する。

④その他

参加スカウトから「のぼり」のデザインを募集する。

のぼりは会場内等に掲出するので、自分が描いた絵がのぼりとして飾られることになる。

■活動サービスセンターに関する質疑応答

Q：場外プログラムが４日目に予定されているが、例年、場外に出るためのバス待ちの時間が長い課題がある。日程を分散させるなど検討できないか。あるいは、一日で全て場外に出るのであればスカウトが長時間、炎天下で待たされることがないように計画して欲しい。

A：福島連盟や北海道・東北ブロックの皆さまの受け入れ体制のことがあるので検討していく。

<チャレンジクルーセンター>

１．チャレンジクルーセンターについて

ベンチャースカウトを対象とし、将来に向けての啓発的体験として、障がいを持つ人との共同活動や生活体験をしたり、大会運営スタッフとして各センター業務に関わったり、「インクルーシブ&ダイバーシティ」「共生社会の実現」の意義と重要性を理解するための体験学習などの教育プログラムを行います。

２．組織編制

３人を１チームとして、６～チームをユニットとする。各チームでリーダーを選出し、互選によりユニットのキャプテンを置く。

３．業務について

- ①参加隊支援業務：参加隊にチーム単位のクルーを派遣し、生活・活動を共にしながら、参加隊の活動を支援する。
- ②SC 支援業務：成人運営スタッフの下で大会運営の一翼を担う。
- ③理解推進プログラム：クルーに対し、障がいを持つ人についての理解を深めるため、技能章講習、クルーフォーラム、基調講演・体験学習などを提供する。

■チャレンジクルーセンターに関する質疑応答

Q：チャレンジクルーセンター内でのローバースカウトの役割とは？

A：２０歳以上は運営スタッフとなるので、センター内でも各班に配属となる。

Q：ベンチャースカウトの進歩は考えられているようなので、ローバースカウトの進歩も同様にお願いしたい。

A：同様に検討する。2020年度の大会では、「RSサロン」というものを検討していた。

Q：19歳までのローバースカウトの扱いはどうなるのか。

A：19歳のローバースカウトは成人の運営スタッフとなり、チャレンジクルーになるのはあくまでもベンチャースカウトのみとなる。

Q：各隊に派遣されるベンチャースカウトは、日ごとにスカウトが変わるのではなく、期間中固定にしていだけないか？

A：できるだけ同じメンバーとは考えているが、イレギュラーも発生する可能性があります。

Q：視力に問題があり野営が困難なスカウトがいるが、その場合は舎営は可能か？

A：障がいの有無はチャレンジクルーには関係が無いので、野営を基本としますが、個別な配慮は検討していく。

<一般参加サービスセンター>

1. 参加対象

ボーイスカウトの加盟員以外の子どもたち（一般の学校に通う子どもたちおよび特別支援学校や特別支援学級で学んでいる子どもたち）やその保護者の方、そして本大会や共生社会に興味があり、学習意欲のある大学生などに本大会に参加してもらいたいと考えている。

2. 日程

通常学級や特別学級といった区分は設けず、下記各日程で各5組ずつ募集する。

※参加費については補助金を一部充当予定

①8月9日(金)～10日(土)1泊2日 5組程度

②8月10日(土)～11日(日)1泊2日 5組程度

③8月11日(土)～12日(日)2泊3日 5組程度

3. 今後の準備・予定

- (1) 各班(総務班・プログラム班)の詳細な役割分担
- (2) テント泊希望の参加者が使うスペースの確認
- (3) 家族で参加される参加者の部屋割り確認
- (4) 会場における一般参加サービスセンターの管理エリア確認
- (5) 一般参加者への説明会準備
- (6) 参加者の障がいに合わせた人員配置計画・施策
- (7) 一般参加サービスセンターのサポートスタッフの募集

<全体的な質疑応答>

Q：医療的ケアが必要な参加者(ご家族)が参加する場合、どこまでの準備が必要か。

A：障がいの重いお子さんに対して、保護者以外の方が医療行為を行っていかどうかの確認をお願いしたい。デイサービスで参加することも可能であるため、ケースバイケースで積極的に対応していきたいと考えている。※現状、補助金の適用は福島県の子どものみとなっているが、県外の参加者にも適用可能かを確認している。

Q：参加費について、県内と県外で差別化を検討した方がいいのではないか。

A：受け入れ数も調整しながら検討を進める。

<全体的な質疑応答>

Q：生活 SC について、入用施設の利用について

ボイラーの管理者勤務時間の関係で利用時間が 17 時 - 22 時までとのことだが、水シャワーだけでも利用はできないか？

A：風呂の利用について、ご指摘のようにこの時期においてのシャワーは必要性を感じている。施設と調整して水シャワーの時間を作れるように交渉していきたい。掃除の時間など対応しないといけない時間はあるができる限り時間を取れるように考えている。確定とまでは言えないが現段階ではそういった調整をしている。（生活 SC 黒田部長）

そのほかにテントサイトの方には簡易シャワーも設置を予定している（和田副実行委員長）

Q：団として派遣隊としての参加を予定している。ジャンボリー等に比べアグーナリー大会の認識が薄い。アグーナリーについての動画や、アグーナリー大会に対する認識を団に普及させる資料等を共有いただきたい。

A：この説明会でお配りした資料については後日データとして日本連盟 Web サイトにアップをしたいと考えている。今回の説明の様子についても録画をしているので参加できなかった方にも見てもらえるように準備をしたいと思う。また 12NA の記録動画については音源の著作の関係で Web に載せることができない。記録としては DVD を事務局で所持しているので団の活動等で、希望があれば貸出は可能（事務局）

Q：宿泊日程の 4 日間のうち交替で参加する場合の参加費について。一人分の参加費で複数人が交代で参加するような分割参加は可能なのか？

A：分割参加については理解したい。個人的な意見では参加可能にしたいと思うが、検討をしていく（高崎実行委員長）

Q：アグーナリー大会へ参加する理由、行く意味などが子ども達は理解できていない。そのようなスカウトへ向けた説明をサポートしてもらいたい。

A：12NA の報告書を Web に載せているが、すこし見つけづらいかもしれないので Web を整備し直す。またアグーナリー大会の 30 秒ほどのプロモーション動画も発信予定なのでこちらも参考にしていきたい。日本連盟内の広報としても機関誌や Web サイト、SNS などでも魅力を発信していく。（事務局）

Q：救護所の位置について 2 か所あるがプログラム会場やベンチャーの宿泊場所から距離がある。位置について機材の関係などがあると思うがまだ検討できるのであればお願いしたい。

A：おっしゃる通りサテライト設置が必要ではないかという事も部会の中で上がっているので、検討を重ねて対応させていただく。また福祉車両、救急車両の扱いについても把握をしていき検討し対応していきたい。（生活 SC 黒田部長）

補足として、スタッフの方には連絡の無線を準備する予定で、例えばチャレンジクルーのスタッフから救護所へ連絡を取り救護班が迎えに行くなどは可能。そのうえでサテライトがどこまで必要かを検討していきたい。（和田副実行委員長）

Q：場外プログラムについて、行った先で車いす活動ができるのか、遠方の方は下見もできない

ため参加を迷ってしまう保護者もいると思う。できればそういった情報も事前にお知らせいただけるとありがたい。

A：事前の案内の中でさらに詳細にご案内をできるようにしたい。それでもまだ解決できない場合は個人対応になるかと思うが準備を進めていく。(活動 SC 植田部長)

本来だと、どんな子どもどこへ行っても大丈夫と言えるような環境を提供できるのが理想であるがなかなかそれが難しいことも現実としてある。その中でプログラムの情報を明確にお伝えし指導者さん、子ども達が検討、選択できるように進めていきたい。(櫻井副実行委員長)

Q：水を使った場内プログラムの検討をしていただきたい。

A：この暑さを考慮すると必要だろうと理解している。こういった意見も一人だけではないことは理解しているが難しい部分もあるため、再度部会を含め検討をしていく。(活動 SC 植田部長)

6. 会場視察

参加者が多いため、2グループに分かれて会場の視察を行った。主な視察場所は以下のとおり。
本館内、キャンプ場、グラウンド場などプログラムエリア

<本館>



・ 講堂（事前研修、参加隊長会議など）



・ 多目的ルーム



・ 喫茶／売店



・ 宿泊部屋



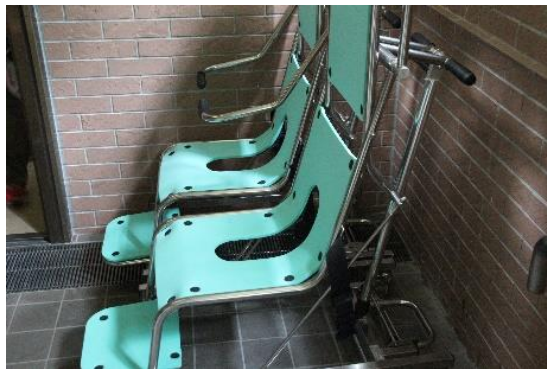
・ ランドリールーム



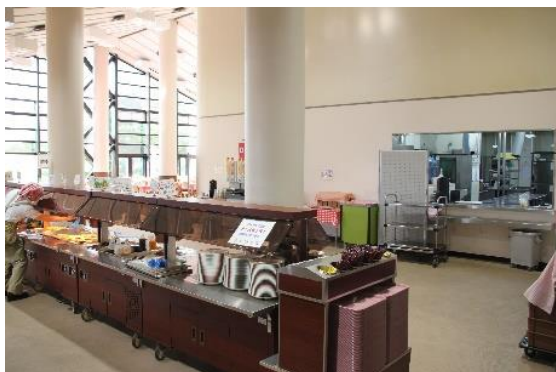
宿泊棟多目的トイレ



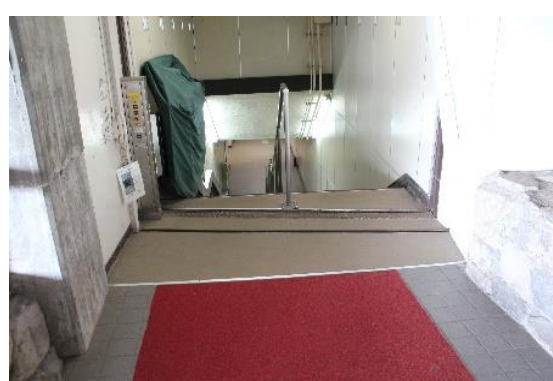
・ユニバーサルユニット



・食堂



本館から食堂への移動（屋内）



つどいの広場から食堂への移動（屋外）



・大浴場（男女それぞれ大浴場あり）



・体育館（場内プログラム、雨天時の式典など）



・ 武道館



・ 総合研修館



<キャンプ場>



・ トイレ





・炊事場（2か所）



・野外炊事倉庫



<屋外施設>

・かんぽラジオ体操広場（旧つどいの広場）



・ 陸上競技場／サッカー場



・ 競技場横トイレ



・ 野球場



・ テニスコート



・ ふれあい広場



・ 駐車場



・ ボランティア棟



・ 弓道場



7. 今後の準備日程

今後の準備日程等（予定）

2023年

11月上旬 基本実施要領の公開、申し込み受付け開始

2024年

2月末 予定申し込み締め切り（各団から県連盟へ）

5月中旬 確定申し込み締め切り（各団から県連盟へ）

7月中 参加章および資料等の送付

※本現地説明会での内容は予定や検討中のものを含んでおります。今後、大会実行委員会において議論・準備していきますので、正式な情報については日本連盟ホームページおよび各県連盟宛の文書等をご確認ください。

※施設内の写真等については、施設に了解を得て撮影しております。また、現地説明会参加者に使用目的を了解いただき、説明会時の撮影を行っております。



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

2023 年 10 月

第 13 回日本アグーナリー

現地説明会報告書